

研究種目：基盤研究（C）

研究期間：2006～2009

課題番号：18520251

研究課題名（和文） 写本に見る中世イギリスの言語事情

研究課題名（英文） Medieval manuscripts as source evidence for the language situation in England

研究代表者

和田 葉子（WADA YOKO）

関西大学・外国語教育研究機構・教授

研究者番号：00123547

研究分野：人文学

科研費の分科・細目：文学・ヨーロッパ語系文学

キーワード：写本、中世、中英語、フランス語、ラテン語、リテラシー、読者

### 1. 研究計画の概要

研究目的は、13～15世紀の英語とフランス語あるいはラテン語で書かれたテキストが共に収められている写本の読者層、使用者層、写字生について考察することにより、中世後期のイギリスにおける言語事情の実態を明らかにすることである。イギリスとアイルランドの図書館を中心に、複数の言語で書かれた作品を含む写本を調査するとともに、日本では入手し難い、中世のヨーロッパにおける政治、宗教、文化、教育の状況に関する貴重資料を収集する。海外の研究者と交流し研究を深める。成果は研究発表、刊行によってまとめる。

### 2. 研究の進捗状況

イギリスのケンブリッジ大学図書館、大英図書館、アイルランドのトリニティコレッジ図書館、アイルランド国立図書館、ウォータールーフード市立図書館では、毎年、英語、フランス語、ラテン語で書かれている13～15世紀の写本の調査を進めている。海外では、日本で手に入り難い資料を着実に収集している。コピーはファイルを使って整理している。マイクロフィルムは、CD-ROMのほうが使用し易いし、特に中世の写本は画面で見たときに質が良く映るので、できるだけデジタル化するようにしている。成果については、論文にしたり、学会の全国大会で発表する他、国際シンポジウムを企画、開催することもできた。専門分野を同じくする海外の研究者との交流も進み、ヨーロッパやアメリカの学者を日本に招へいし共同研究したり、海外ではディスカッションできる機会を必ず持つようにしている。

アイルランドにおいて中英語で書かれた写本も多言語社会の状況を知る1つの手掛かりとなる。例えば、イングランドの支配を受けていたアイルランドで1330年ごろ書かれた London, British Library, MS Harley 913 には、英語、フランス語、ラテン語による作品が収録されている。ラテン語によるものは、聖フランシスコとその修道会に関する記録が主である。英語で書かれた作品は、諷刺詩や宗教詩で、説教をする際、朗読されたと考えられる。わずかに含まれる伝話による作品は、13世紀に起こった出来事を韻文にしており、内容から察するに、歌われていたと推測される。14世紀のアイルランドでは伝話が公的文書にのみ用いられ、話し言葉としては死語になっていたにもかかわらず、この作品が記録され続けられていた事実はいへん興味深い。このような写本も参考にしながら、研究を進めている。

### 3. 現在までの達成度

②おおむね順調に進展している。

ほぼ計画通りに進んでいるが、多言語社会の全体像を掴むことを目的としているながら、時として、面白い写本が見つかる、その特定の写本に調査の時間をとられることがあるので、時間配分に注意したい。

### 4. 今後の研究の推進方策

海外での研究調査と資料収集を続けると同時に、平成21年度は最終年度であるため、まとめと分析にも十分な時間をとる必要がある。遅くとも9月からは、総括を始める計画である。

5. 代表的な研究成果

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔学会発表〕(計5件)

①和田葉子、関西大学東西学術研究所 研究例会「修道女?の手引き—*Ancrene Wisse* とその作品群の読者」

2009年3月27日

②和田葉子、日本英文学会第80回全国大会シンポジウム「ヨーロッパ中世の神秘主義 霊性とナラティブ」(講師:久木田直江、岩波敦子、和田葉子、松田隆美)において、「修道女は' Wooing Group' といかに関係したのか: ' *Ancrene Wisse* Group' と神秘主義」を発表した。2008年5月24日(広島大学東広島キャンパス)

③和田葉子、「初期中英語の宗教作品に見る愛の受難曲」(関西大学東西学術研究所 国際シンポジウム「国境なきヨーロッパ—文学における異文化接触の形—(講師:高田康成、パトリック・オニール、和田葉子、八亀徳也、平田渡、アンドリュー・ブリーズ(オニール代読)) 2008年5月10日(関西大学東西学術研究所)

④和田葉子、関西大学東西学術研究所 研究例会「アイルランドにおける中英語」2008年3月25日

⑤和田葉子、関西大学東西学術研究所 研究例会「どの言語で書くべきか: 中世英国におけるフランス語・英悟・標準語の状況について」2007年1月26日

〔図書〕(計1件)

①和田葉子、『『修道女の手引き』とその作品群/*Ancrene Wisse* Group』、pp. 71-6, 高宮利行・松田隆美編『中世イギリス文学入門—研究と文献案内』(454頁)(雄松堂)2008年12月10日